

謹啓、初夏の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今回は心温まる義援金をお寄せいただき、福島県民を代表して心から御礼申し上げます。

お寄せいただいた義援金は、県内で被災された方々の一日も早い生活再建に役立てていただけるよう、公平にお届けいたします。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から7年3か月。

避難指示の解除や生活環境の整備が徐々に進んできました。

新たに小中学校や復興を担う人材を育てる小高産業技術高校が開校し、子どもたちや生徒の声が聞こえるようになりました。

復興が進む福島の今があるのは、県民の方々が重ねてこられた努力と、福島を応援いただいている世界中の方々のお力添えの賜であり、心から感謝を申し上げます。

復興に向けた光が強さを増している一方、廃炉・汚染水、根強い風評被害や震災記憶の風化など、重い課題を未だに抱えています。

前例のない困難な課題に立ち向かい、一つ一つ解決していくためには、皆が互いに協力し合い、果敢にチャレンジしていかなければなりません。

子育てしやすく、生涯にわたり健康で生き生きと豊かに暮らせるふくしまづくりを目指し、あらゆる機会を生かして、未来に向けて挑戦し続ける福島の姿を力強く発信してまいります。

それぞれの夢や希望に向けて挑戦を続ければ、必ず道は拓けます。

苦悩や逆境を乗り越えた先人たちのように、私たちも新たな郷土の誇り、ふくしまプライドを築いてまいります。

今後とも当県の復興に御理解と御支援をお願いいたします。

このたびの温かい御厚情に対し、略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のますますの御発展をお祈り申し上げます。

敬 白

平成30年6月

「とどけ歌声被災地へ！」実行委員会 実行委員長 椎名 康子 様

福島県知事 内堀 雅雄